

# コミュニティづくり

## ～ 広の庭づくりプロジェクトの会から～

ひろしまね園芸福祉協会  
「広の庭づくりプロジェクトの会」代表  
信谷 美智子

私が住む広島県呉市広というまちは、瀬戸内海に面しその名の通り平地に広がっています。そこには大型のスーパー、量販店、飲食店と何でもそろそろ、とても便利なまちです。そのせいででしょうか、空地があるとすぐにマンションや住宅地へと変わってしまい、ますますまちが自然から遠ざかるばかりに思えてきます。そして私はいつしかそんなまちの風景に忘れられていく自然の花や緑への思いを強くするようになりました。

花や緑というものは、もともと人と共にあるものだと思います。昔からあった懐かしい風景にはいつも人の暮らしの中にあり、そこから近所づきあい、今でいうコミュニケーションが生まれていたと思います。そしてこのような風景が時の流れとともに、どこかへ置き去りにされてきた今では、人と人とのつながりが薄れています。そんなまちに目をやると、やはり取り戻したいのは花と緑の空間なのです。そして、それがコミュニティづくりにつながるには、住民どうしが共につくる緑の空間、庭づくりから始まるのでは、という思いが増すばかりでした。そこで、私は

### “庭づくりを通じた人と人をつなげるコミュニティづくり”

をコンセプトに2013年の6月に、「広の庭づくりプロジェクトの会」を立ち上げました。それ以来現在まで、地域のさまざまな人を巻き込んで和気あいあいのコミュニティづくりとなっています。

## 人と人をつなげるから伝えたい「広の庭づくり」の魅力

広というまちで花と緑の場所をつくろうと始まった庭づくりは、地域の通学路沿いの土地で行っています。ここは多くの人たちが生活道路として利用していますので、見て楽しむには相応しいと思われます。(写真1)そして、活動にやって来る人たちは不思議なもので、その場その場の活動に得意とするものを活かせる人たちです。人と人の縁に恵まれています。

ここは「広の庭」と名づけ、①多様な植栽と施設、②伝統文化を楽しむ③子どもたちの希望をかたちにする、を柱に活動をしています。



(写真1)左側の通学路沿いに位置しています

### ① 多様な植栽と施設

季節を感じる花、子どもが楽しめる庭、昔懐かしい小麦畑、野鳥を呼ぶ庭などとともに、さまざまな施設を手作りしています。

### ② 伝統文化を楽しむ

昔からある季節の風物や食文化を楽しみ、子どもたちに伝えています。

### ③ 子どもたちの希望をかたちにする

小麦や野菜の収穫作業、小麦の虫かごづくり、土俵づくり、大工仕事と、ものづくりの場があります。

## ① 多様な植栽と施設



季節の花をはじめいろいろな植栽が見られますが、中でも「野鳥を呼ぶ庭」は小さな「里山の庭づくり」を意識しています。シンボルツリーに手作りの巣箱をかけ、周りには土地のいろいろな木や草花を植えています。そこで鳥、虫、花が持ちつ持たれつという関係になると、小さな生態系づくりにつながると思います。そしてこのような庭を支え守っていくために、堆肥づくりの枠、雨水を流し入れる竹樋などの施設は、どれも会員の技能と善意で手づくりしているのです。

## ② 伝統文化を楽しむ





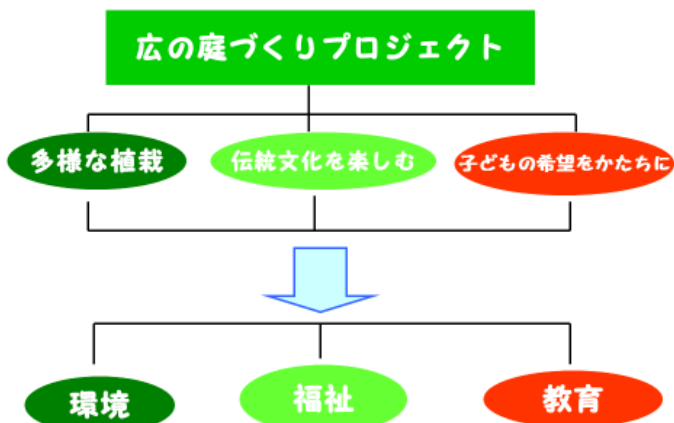
近頃は近所づきあいが薄れてきて、地域で伝統の行事を楽しむことが少なくなりました。ですから、季節ならではの風物やその土地ならではの文化から遠ざかるばかりです。こんな時代だからこそ、私たちは知恵と知識を持ち寄り、伝統行事を楽しみ、伝えていくことを大切にしています。

### ③ 子どもたちの希望をかたちにする



広の庭は子どもたちにとっては、食育、体力づくり、ものづくりの場所となっています。子どもたちは、普段自分たちが食べているものを植える、育てる、収穫する、味わうなど実際に体験し、何かを感じていると思います。そして麦ワラ、土、木材など自然のもので遊び、ものをつくるなど、自然とふれあい成長してほしいと思います。

#### (図1) 3つの柱のつながるしくみ



このように、私たちは3つを活動の柱にすることによって、さらに3つのことにつながる関係づくりができています。(図1)

庭づくりがまちの心地よい**環境**づくりとなり、**福祉**とは一人ひとりが活動を通じて、豊かさを実感することです。そして子どもから大人まで学ぶ、教えるなど互いの**教育**の場があります。

このようなしくみの中で、仲間意識が育ち、コミュニティづくりにつながっていくことは、とても大切だと思います。まさに「園芸福祉」といわれるゆえんです。

## 第2弾 広駅前庭づくり

駅前といえば、地域内外の多くの人を利用するため、まちの玄関といえます。そのため、もっと草花などを取り入れて、まちのカラーをつくりイメージをよくしたいと長い間考えていました。

このような思いが昨年6月呉市の「まちづくりトライアル助成」という形で受理されたのを機に、その後の9月から活動を始めました。

「広の庭づくりプロジェクトの会」の数名が有志としてともに汗を流し、今では近隣の企業や駅舎の利用者の楽しみになってきました。(写真2)



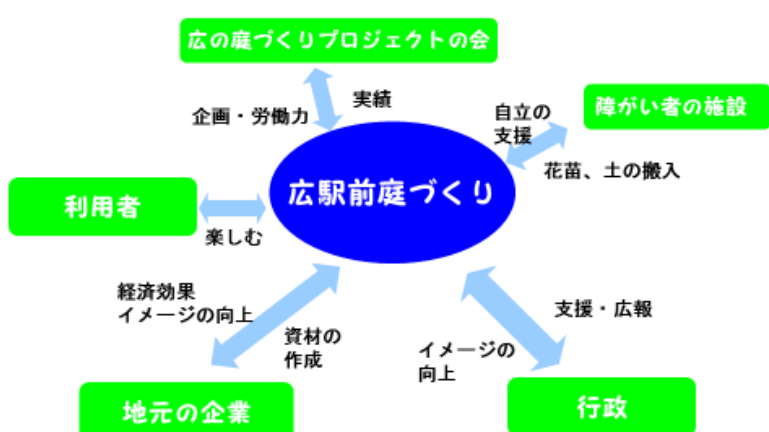
(写真2) 2015年12月

## 企業とつながるコミュニティづくり

駅前という場所は、周囲に関係する企業も多いため、はじめは活動に否定的な声があるのではと不安がありました。実際 JR、タクシー、ビジネスホテル、自治会など、あいさつやチラシ配りをしてみると、むしろ背中を押されるような声が多く、好意的な印象でした。このようなことから、活動をすすめていくために企業との良い関係をつくる好機と考え、必要な資材の依頼先はすべて地元の企業としました。企業と私たちの活動の双方向にメリットがあることが、企業との良い関係づくりにつながると思うのです。(図2)

その後実際活動が始まると、JR 職員が1名草取りに、タクシー運転手が水やりや見守りをしてくれるなど、労力の協力も見られるようになりました。活動が落ち着いてきた現在では、今までせっかく関わりができた企業のイメージアップを考え、木材コンテナへ「協賛」という形で社名を連ねています。(写真3)

(図2) 広駅前庭づくりのしくみ



(写真3) 2015年12月

## これからの広の庭づくりプロジェクトの会

今まで出会った仲間とより魅力ある庭づくりをしていくために、一人ひとりの発想や役割を尊重し、よりよい景観づくりをしていきたいと思ひます。そしてこのような活動から実感できる福祉という効果を、さらに地域、企業へとより多くの人々が共感できるように考えていきたいと思ひます。